

ベトナムの文化や経済、国情について

研 修 会 記 録

(平成30年3月29日)

堺 市 議 会

堺市議会議員研修会
平成30年3月29日

研 修 会 記 録

講 師
在大阪ベトナム社会主義共和国総領事
ヴ・トゥアン・ハイ 氏

堺 市 議 会

○午後 1 時 3 5 分開会

○野里議長 皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから堺市議会議員研修会を開会いたします。

本日は、本当にお忙しいところ、堺市議会議員研修会に多数御参加いただきまして本当にありがとうございます。

議員の皆様方には、御承知のように、本市議会は、議会基本条例第 1 8 条において、議員の政策形成及び政策立案の能力向上のため、議員研修を充実強化すると規定しております。

このことから、本日は、国際文化、特にベトナム社会主義共和国に対する見識をさらに深めるため、現在、本市に 1, 5 0 0 人を超える方々が居住され、堺区内に総領事館が立地しております同国の文化や経済、国情につきまして、在大阪ベトナム社会主義共和国総領事 ヴ・トゥアン・ハイ様に御講演をお願いいたしましたところ、公私御多忙にもかかわらず、御快諾いただきました。まずもって、心から御礼申し上げます。

つきましては、議員各位におかれましては、最後まで御傾聴いただき、この全議員研修会が有意義なものとなりますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

それでは、着座にて進行させていただきます。

「ベトナムの文化や経済、国情について」

講師 在大阪ベトナム社会主義共和国総領事

ヴ・トゥアン・ハイ

○ヴ・トゥアン・ハイ講師 皆さん、こんにちは。本日、皆さんとお会いできまして、それからベトナムについての基本的な情報提供の機会がありまして非常にうれしく思います。

本日、我々も時間の制限の関係で、ベトナムについての基本的な情報しか御提供できないものと思っております。その中で、まずベトナムについての概要、それから歴史、文化、経済、対外関係などについて御説明させていただきたいと思っております。

本日の情報は基本的なものですので、もし議員の皆さんのほうから御質問とか不明な点がありましたら、御遠慮なく聞いてください。どんな分野でも御回答させていただきたいと思っております。

アジアにおけるベトナム、それから東南アジアにおけるベトナムの地図なんですけれども、ベトナムと日本との形としては似てる部分もあるんですけどね。この地図の中で、東南アジアの一番中心に位置しているベトナムのベストポジションですね。

基本的にベトナムの北のほうは中国に接触、それから西のほうはカンボジア、ラオスに接触しますけれども、東側は海ですね。基本的には面積は33万平方キロメートルぐらいなんですけれども、その中で4分の3は山岳、それで残りの4分の1は平地ですね。その中、ベトナムは2つの大きなデルタがありますけれども、北部のデルタ、それから南部のデルタです。一番真ん中には、狭くなっているんですけども、歴史から形成されたベトナムです。

気候に関しては、中部から北部までははっきり四季があります。それから中部のダナン、フエ市から南に行くと二つのシーズンしかないです。例えば皆さんもよく観光に行くホーチミン市なんですけれども、冬がないところですね。

行政区分に関しましては、合計63県・省があるんですけども、その中58省プラス政府直轄する5つの都市があって、その中で100年以上歴史を持っている中東のハノイ、それからホーチミン市、港であるハイフォン市、それからダナン市とカント市があります。

一番最新、2017年のデータで、現在、ベトナムの人口は9,600万人です。その中4割は都会で住んでいて、残りの6割は田舎で住んでいます。

それと、ベトナムのナショナルデーは1945年9月2日ですけども、ベトナムの政治システムはベトナムの名前からわかると思うんですけども、ベトナム社会主義共和国なんです。共産党が主導しています。

まず、この図はベトナムの4,000年の歴史の図なんですけれども、一番最初に、紀元

前2800年なんですけれども、ベトナムの各民族ですね、この地域に住み始めたと言われてます。その後は最初の王朝があつて、147年間があつたんですけれども、それはフン王の王朝と言われました。その次は1,000年以上の間で北部の封建王朝に侵略されまして植民地時代でした。

その次は、ベトナムの独立の各王朝が主導している920年間がありました。その次は、1858年から1954年、合計96年間、フランスの植民地でした。その次は、アメリカとの戦争があつて、21年間でした。その当時、ベトナムの北とベトナムの南、二つに分かれました。それから、1975年4月30日からアメリカ軍が撤退しまして、ベトナムは独立しました。

この図を見ましたら、建国してから1,000年以上植民地時代があつて、それから独立の王朝としては920年間がありました。各歴史の専門家によく言われているんですけれども、ベトナムと同じような国はなかなかないんですけれども、1,000年以上の植民地時代があつて、最終的に独立できた国はなかなかないと言われました。

これから文化についても詳しく御説明させていただきますけれども、やはり植民地時代のときに、多く中国からの文化も影響を受けていました。それから、独立の王朝としても920年間、引き続き中国との戦いがたくさんありました。その間で平和として知られている時期は多くても100年だけなんです。なので、その920年間ですべて戦いがありました。

それから、やはり歴史から文化の特徴も御説明しないとけないと思います。一番の特徴として文化の多様性があります。やはり54の民族があつて、その中で一番多く占められるのはキン族ですね、我々もキン族なんですけれども、そのほかの少数民族は2割になっていないんです。

言語、標準語的には越語というのはベトナムの標準語ですね。そのほかは、あと少数民族の言語もテレビ、それからラジオで放送されています。17世紀まではベトナムは漢字を使っていました。それ以降は、ヨーロッパからの宣教師がベトナムの発音をローマ字で記入できるようになりました。なぜベトナムはアルファベットの文字を使われているかという、それはまず便利さがありますからね。それともう一つの理由があるんですけれども、それは中国の文化からちょっと離れるような話もありました。それは文字の話ですけれども、言葉、発音はそのまま、今まで維持しました。

それから文化の多様性の、宗教の面でも、一番多く占められる宗教としては、まず仏教、次に多いのはキリスト教、そのほかイスラム教もあります。最近できました2つのカオダイ教、それからホアハオ教は20世紀から発展しました。生活の面から見ると、現在、ベトナム人は、仏教、それから老教、孔教などあわせて宗教を扱っている7割の人口があります。そのほかにも、各家庭では祖先の崇拝ということもあります。

それとベトナムでは豊富な有形遺産、それから無形遺産などがあります。有形遺産でした

ら、各建築、それから無形の遺産でしたら服装などがあります。

それから、ベトナムの文化の特徴は開放性がありますけれども、ベトナムはもともと稲の文化を持ちまして、その後は漢、漢は中国ですね、それからインド、フランスの文化の大きな影響を受けています。それから、ベトナム人の柔軟性もありますけれども、例えば海外からの異文化を受け入れて現地化させるのは多いと言われました。

それから、特徴である、領土に基づきましてコミュニティがあるということです。

ここはもう少し詳しく説明したいんですけども、例えば1つの地域で1つの民族ではなく、多くの民族も一緒に住むということが多いです。それから、各地域に住んでいる各民族は、その地域を大事にするんですけども、自分の家族より大事ですけどもね。だから例えばベトナムの国の名前から調べると、1つの家族の名前は国の名前になったことがなかったと思います。例えば幾つかの国は、その国の名前はその王様の名前がつけられたこともあると思います。ベトナムでは、今まで自分の名前として国を名づけた王様はいなかったんですけどね。

それから、北部、北の中国からベトナムに入ってきた人たちも、だんだん時間がたって、ベトナムの人になっていました。だから、そのような人たちも、自分もベトナム人として認識しています。例えば私の場合でも、もし調べたら、大体9世紀から中国の南のほうからベトナムに入ったこともわかってきました。だから、私としては自分はベトナム人としてずっと認識していました。領土に基づくコミュニティの言葉の概念を説明しました。

それから、コミュニティの5協心という概念もあるんですけど、簡単に説明しますと、ベトナムの人たちは、法律とかルールとかのことによって協心するのではなく、お互いで相談した上で決めるということですね。例えば国の大きな課題に直面するときには、お互いで協議した上で譲り合って行動するのは大きな特徴です。

それから歴史からまとめまして、ベトナムの伝統的な価値ですね、まずはベトナムの民族の統一の特徴があるんですね。先ほどの1つの領土に基づくコミュニティの概念もあります。それから、さまざまな民族も同じだと思いますけれども、ベトナムの民族は平和、それから友好のことも大事にしています。なぜかという、歴史から見ると結構戦いとか戦争が多かったんですね。

それから、民族の独立の精神ですね。やはりアメリカ戦争、それからフランス戦争があって、終わったときには、なぜ自分が失敗したかという疑問があったんですけども、やはり最終的にはベトナムの民族、それから伝統的な価値を知らなかったという答えがありました。独立の精神と友好のことは対立しないんですけども、ただ、国を守るための非常に大きな役割がありました。

それから、もう一つ、寛容ということもベトナム人にとっては大事な文化の価値です。例えば戦争で戦った人たちに対しても、非常に人文、それから人徳的な対応もしました。例え

ば歴史の中で北部との戦いが終わったときに、勝利しても、負けた人たちに馬とか移動手段をあげて、国に戻られるよう対応しました。だから、その対応は歴史のずっと昔から最近の国境の戦争、1979年のときにもしました。だからベトナムの人たちは、歴史で戦いがあって、繰り返すということより、将来を見て一緒に協力していきましょうという精神が強いんです。歴史を見返すということは、やはり侵略されるときとか、国に危機があるときしか考えない。

例えばアメリカとの戦争は21年間があったんですけども、1992年、初めてビル・クリントンアメリカ大統領がベトナムを訪問したときにも、非常に喜んで接客しました。それはやはり寛容という精神がありますから。

韓国、中国、日本の昔の歴史があると思うんですけども、ただベトナムのほうは、余り歴史の話、過去のことですね、考えて賠償とかの話がないんですね。その逆に、昔の敵であった国々に対しても、ベトナムはできるだけいい関係をつくっていくという精神があります。

それから、家庭の価値の中で、年配者を尊敬したりとか、祖先を崇拝したりとかの価値もあります。先ほど私も説明しましたように、祖先の崇拝もその価値の1つです。

それから、楽観ということもあるんですけども、例えば国の一番厳しいときにも、みんなが将来を考えて頑張るとい精神があります。

先ほど御説明しましたように、これからベトナムの有形、それから無形の世界遺産を御説明させていただきます。

これはハノイのタンロン皇城です。

それから、これはハロン湾で、世界自然遺産、登録した年数は1994年です。皆さんもごらんになっていただいて、海の中に山がたくさんあるということですね。これは2つの意味があるんですけども、きれいさがあるほか、国を守れるという地形もあります。今の現時点は、経済、それから観光の価値があるところです。

それから、これは胡朝の城塞です。

これはフォンニャ・ケバン国家自然公園です。このところはユネスコより世界一きれいな鍾乳洞と言われてます。

これは恐らく皆さんも多くの方々がお訪ねしたことがあると思いますけれども、フエ宮殿です。

これはホイアン旧市街です。このまちは、ベトナムと日本との関係があるまちと言われてます。

これはミソン聖地の遺跡なんですけれども、もともとチャム族の遺跡です。

遺産のほか、観光地として有名であるところは、クチの地下道です。それからフーコック島です。

やはりベトナムの文化から見ると、庶民たちの文化ということがメインな文化なので、中

国のような大きな像とかがあまりないです。例えば王様が国のお金を使って自分の像をつくるのは、めったになかったです。唯一の自分の像があるところはフエですね。20世紀からグエン王朝が自分の銅像もつくったこともありました。

それから無形の遺産を説明させていただきたいと思います。

これはフエの雅楽ですね。2003年、認められました。これはベトナムだけではなく、中国、日本、韓国、ベトナムなど宮殿のための雅楽と言われています。ただ、ベトナムのほうではたくさん残ってしまっていて、アジアを代表できるような無形の遺産として知られているので、認めていただきました。私もまだ覚えているんですけど、登録をめざすときには、日本人である方、ノリコ・カワイさんという方なんですけれども、積極的に応援していただきました。

これはテイグエンゴング文化的空間ですね。

それから北部のベトナム民謡ですね。

これはカーチュ、ベトナムの伝統芸能なんですけれども。

これは世界遺産ではないですけども、ただベトナムで非常に特色がある水上人形劇です。それから、ベトナムの各少数民族の服装について御説明しますけれども、これはキン族の服装です。それからタイ族の服装ですね。大体ベトナムの人口の1.5%です。モン族ですね。中国、ラオスなどもモン族がいますけど。ムオン族、一番キン族に近いところで住んでいます。これはチャム族ですね。チャム族はイスラム教です。ほとんどです。これはクメールの民族です。中部テイグエンのバナ族ですね。ここはザオ、赤ザオ族ですね。

皆さん、服装を見ましたら、ほとんど女性の服装ですね。それはやはりベトナムで女性の役割は大きな役割がありました。男性も自分の服装もあるんですけども、ただあまり見きわめられないんですけどね。ベトナムで文化を維持できるのは、一番大きな役割を果たすのは女性のほうです。

これはハニ族ですね。

これからベトナムの各祭りなんですけれども、私がざっと説明します。

一番大きな行事は旧正月ですね。演劇ですね。

これはフン王祭りですね。初めての王様です。

フオン寺祭りですけどもね、仏教の祭りなんですけど。

リム祭り。バクニン省。

これはホアンサ祭り、昔の戦士の人たちを記念するための祭りなんです。

これは象の祭りですね。

カマウのギンオン祭りです。

代表的な飲食文化ですね。フォーです。揚げ春巻きです。バインミーですね。これは十数年ぐらいです。

バイチュンとベトナムの餅ですね。バイチュンは地球の代表、ベトナムの餅は太陽の代表です。

これは熱帯の果物ですね。

これは伝統的な楽器ですね。

ベトナムで昔、かなり戦いがあったんですけども、戦いを勝利するための幾つかのまとめがあります。

それはまず、国民抵抗、国民の皆さんが参加するという戦いですね。敵があった場合は、年代、民族関係なく、みんなが参加します。それプラス、武器は何でもいいですから、全部使います。さらに各民族の歴史でまとめた技術を使います。

それから2つ目、柔対強ですね。例えば強い敵があったときには、対立するのではなく、ほかの方法でやります。

その残りの3つは、戦争で非常に人文的なやり方なんですけれども、皆さんも漢字をごらんになっていただくとわかると思いますけれども、戦争のときにも一番被害が一番少ない方法で使いたいということです。だから、武力を使うのは仕方がないときしか使わないです。

それから、軍事芸術の中でも創造力もあります。事例を挙げたいと思います。例えば1972年、アメリカ軍がハノイを爆弾したときに、そのときにはベトナムはロシアから支援していただいたミサイルしかないです。ただ、そのミサイルは高さ大体10キロメートルレベルしか飛ばないです。アメリカ軍のB52の飛行機は15キロメートルの高さで飛んでいました。そのときにアメリカ軍の使ったB52の飛行機は合計80台があったんですけども、その半分ぐらい落としました。アメリカのほうもロシアのほうも理由もわからなかったんですけどね。ロシアの支援のミサイルを改善しまして、高さ2倍まで工夫をして改良しました。それは軍事芸術における創造力の1つの事例を説明しました。

ざっと経済の情報を提供させていただきたいと思います。

これはほとんど2017年のデータなんです。

大体GDPは今2,200億米ドルです。成長率6.8%です。

今、農業2割、それから工業3.9割、サービスは4.1割占めています。

輸入輸出の総額は4,240億米ドルです。その中で日本との貿易総額は310億米ドルです。

これも重要な数字なんですけれども、去年、直接投資額は358億米ドル、この10年間で一番最高の数字です。その中、日本からの投資額は91億米ドルです。4分の1占めています。ベトナムの外資の投資に大変貢献している日本の役割があります。

それから、輸出もこの5年間で最高の増加です。

それから、ベトナムを訪れる外国人の数です。1億3,000万人ぐらいになっているんですけども、私、知っている限りでは、関西のインバウンドの数と同じぐらいですね。

これは経済成長率の図ですね。皆さん、イメージしやすくするための図です。

これは国別の投資額なんですけれども、今この図の中で日本は2番ですね。ただ、去年の数字だともう1番になりました。韓国を超えて今、1番になりました。

それから、これは国際経済統合なんですけれども、その中で日本とベトナムとの自由貿易、パートナーシップのアグリーメントが2008年調印されていました。

これはベトナムの外交関係についての情報なんですけれども、現時点、178カ国との外交関係がありまして、さらに220カ国及び地域との貿易交流があります。

それから、主な外交関係の目的は、まず、平和、それから2番目、発展、3番目は国際的なベトナムの位置を強化するということです。

それから、方針としては、各国と仲よく、それから積極的な国際統合に力を入れています。

2番目は、先ほど説明しましたように、国際統合を積極的に強化していきたいです。さらに時代の力を合わせる民族の力を使いたいということです。

これはベトナムと近年、それから2017年の成果なんですけれども、一番成果があったのは、各世界のフォーラムとか、積極的に役割を果たしたとして高く評価されました。1つの事例としては、去年、ダナン市で開催されましたAPECの首脳会議がありました。そのほかは、ベトナムと大きな各国との交流も非常に発展しました。大きな国、それから国連の理事国との交流も進んでいました。なので、そういう外交関係に力を入れて、ベトナムは各国から見て、高く評価されています。

1つの事例としては、数日前に韓国の大統領がベトナムにお訪ねしていただいて、発表の中では、韓国の南への計画の中で、ベトナムが一番大事なパートナーと言われました。2017年11月に、トランプ大統領がベトナムを訪問したときにも、アメリカの外交の政策の中でも、ベトナムは非常に大事なパートナーと言われました。それと、皆さん御存じだと思いますけれども、日越友好関係の中でも、お互いに非常に不可欠、それから大事な役割があると認識しております。

以上、遅くなりましたけれども、私の発表はこれで終わりたいと思います。もし御質問があれば、ぜひお願いしたいと思います。ありがとうございます。（拍手）

○田渕副議長 どうもありがとうございました。

それでは、今、ヴ・トゥアン・ハイ総領事ですね、昨年11月17日付で在大阪の総領事に就任なされて、約4カ月になります。

貴重な御講演いただきまして、せっかくの機会でございますので、何か今の御講演に対しまして、御発言等がありましたら、挙手をしていただきまして、よろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

○石本議員 本当に素晴らしいお話ありがとうございました。石本と申します。着座にて質問させていただきます。

本当に自然環境も大変すばらしいですし、また、4,000年の歴史というのも、私、初めて知りました。実は私がまだ学生時代にベトナムで本当に大変な戦争があったことで、ベトナムのことには大変関心を持っていたんですが、しかし、4,000年もの歴史があったんだということを改めて知りました。

それで、そのすばらしい歴史やあるいは自然をどのように子どもたちに伝えるのか、学校教育はどのように行われているのか、そのあたりを少しお聞きしたいと思います。

○ヴ・トゥアン・ハイ講師 ベトナムの教育のシステムについて御関心を持っていただいております。ありがとうございます。

各国と同じように、若い世代、次世代の教育も非常に大事にしているベトナムは、先ほど私が説明したような歴史の内容は、ずっと私の子どもの時代から教育を受けていました。ただ、最近、いろんな情報が入ってきまして、学生さんが疑問を持っていることについて、詳細説明することもありました。例えばベトナムの文化、それから中国の文化はどう違い、どんな点に違いがあるかということについても学生さんに説明しまして、説明した理由は、対立するのではなく、ただ自分の国の文化も十分理解できるように教育しました。

先ほど私が説明しましたように、ベトナム人は、自分が生まれたところは非常に大事にします。例えばほかのところから集まった人たちにも、もし集まりましたら、その地域を非常に愛しています。例えば数十年前、歴史の話があつて、そのときの華僑の人たちは、海外に行ってしまうていましたけれども、ただ、今の時代に、戻れることになるんですけども、中国に戻らず、ベトナムに戻りたいという方が多いです。

なので、学生さんに対して、歴史の教育はそんなに難しいことではないです。今、教育でよく大事にされるのは、やはり生活の面で今グローバルの世界、それからその時代に合わせるような生活のスキルを教育されるんですね。だから例えばベトナムのいい価値を維持しながら、海外からよいことがあれば受け入れられるような教育もしないといけないです。なので、最近、ベトナムでも英語を勉強したい、それから日本語を勉強したい学生さんがふえています。ありがとうございます。

○田淵副議長 どうもありがとうございます。

せっかくの機会ですので、できるだけ多くの議員の皆様から何か御意見等、御発言をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○西議員 すみません、西と申します。よろしく申し上げます。

去年、赴任していらっしゃる、今、あえてほかの都市ではなくて、堺市に今、領事館があるということの意味、メリットを、国としてのお立場、そして個人としての思いの中で、どのように考えられておられますか。

○ヴ・トゥアン・ハイ講師 おもしろい質問をありがとうございます。

まずはなぜ堺市になるかということ、偶然の話でした。もともとのときには、堺をめざして

総領事館を設置する話ではなかったんですけどね。だから、もともとの話は在大阪の総領事館として、もともとの場所は大阪市内でアパートを借りました。狭くてですね、それからサービス料も高かったんですけども。だから、そのときのニーズは、コストが安くて、手ごろのことで、ただ、大阪府内ということで探すということをしました。そのときの総領事の友達の御紹介で、堺市にいい物件があって、結局ここに移動してきました。

私たちとしては、堺市からさまざまな御支援を賜りまして、大変満足していて、うれしく思います。将来20年先はわからないんですけども、ただ私の個人的な希望は、もしずっと堺市にいたらいいなと思います。ありがとうございます。

○田淵副議長 一応3時を予定していますけれども、どうしても、せっかくの機会ですので、もう一方、どなたかございますでしょうか。

○森議員 森と言います。ベトナムと中国は昔から仲が悪かった、その原因って何かありますか。それともう一つ、先生は中国語はおわかりなんでしょうか。中国の方はベトナムのことを理解できるものなんでしょうか。それだけお願いします。

○ヴ・トゥアン・ハイ講師 先ほど私が説明しました1,000年の戦いがあったのは、その当時の、今の中国ではなく、我々が呼ばれている北方、北の封建の王朝、今の中国ではないですね。そのときのベトナムは今のベトナムではないですね。中国に対する幾つかの概念ね、例えば中国、それから漢、漢字の漢ね、それから華僑の華ね、だから一緒ではないんですよ。歴史の話なんですけれども、当時、中国での各小さな国々があったんですけども、その国々はやはり王朝を拡大するという意志が強かったんですけども、なので、ベトナムとの戦いは、歴史から見ると当然のことだと思います。なので、その当時は各中国の王朝も、十分、文化、勉強、研究してではなかったと思うんですけども、そのときは、やりたいですからやるだけで、話になりました。

1,000年近い戦いがあったんですけども、北部の相手が一度も勝ったことがないという理由は、先ほど説明しました54の少数民族が住んでいたところは、その人たちは非常にその住んでいるところを愛しているから、だから、団結して戦ったんですけどね。なので、ベトナム人の人たちは、自分が中国と違って独特の文化を持っていますので、どうしても独立したいという意志が強かったんですけどね。

先ほど2つ目の質問ですけども、ベトナム語は中国語と違って、形容詞が一番最後、言葉の最後ですね、位置づけされます。さらにベトナムの文化は指導者のための文化ではなく、庶民たちの文化として認識されています。きょうの時間の制限があるんですけども、中国とベトナムとの文化の面で違いが大体10点から12点以上があるんですけども、それと例えば中国との文化の違いは、料理の名づけということですね。だから、直接原材料を意味する名前を名づけするのがほとんどですね。

なので、今、中国、日本、ベトナムとか、今、全世界でお互いの言葉を勉強しなければ、

お互いに理解できないと思います。私は調べたんですけども、ベトナムと日本語との間で同じ、似ている発音が、3, 0 0 0、言葉があるんですけどね。もし、ベトナム語を勉強したい方がいれば、私がこれから、例えば結婚、記録、それからラクダ、歌手とか、全部発音似てるんですよ。ありがとうございます。

○田淵副議長 それでは、まだ御発言あろうかと思えますけれども、予定の時間が参りましたので、これで終わらせていただきたいと思えます。

それでは、閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

ヴ・トゥアン・ハイ総領事様におかれましては、長時間貴重な御講演をいただきまして、まことにありがとうございます。

私たち議員一同、本日拝聴させていただいた御講演の内容を深く心にとどめ、これを十分に生かし、今後の議会活動に役立ててまいりたいと思っております。

また、御出席の議員各位におかれましては、最後まで御聴講いただきましたことを厚く御礼を申し上げ、閉会の御挨拶とさせていただきます。

それでは、これをもちまして、堺市議会議員研修会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。（拍手）

○午後 3 時 4 分閉会